

第9回門真市魅力ある教育づくり審議会 (第7回子どもの学ぶ意欲向上部会) 議事録

開催日時 平成30年7月10日(火) 午後6時10分～午後7時10分

開催場所 門真市役所本館2階 第7会議室

出席者 新谷龍太郎、川村早余子、片山仁、中川智広

事務局 寺西教育部総括参事、峯松学校教育課参事、向井学校教育課長補佐、石原学校教育課副参事、永田教育総務課主査

傍聴者 0名

議 事

新谷部会長

それでは子どもの学ぶ意欲向上部会を開催させていただきます。部会で皆さんとお話しするのは今日が最後になりますね。どうぞよろしく願いいたします。それではまず、事務局から今回の議題について説明をお願いいたします。

事務局(峯松学校教育課参事)

失礼します。今回の子どもの学ぶ意欲向上部会では、子どもの主体的な学びの育成について討議をお願いいたします。討議の時間につきましては、60分を目安と考えており、現在が18時10分でございますので、19時10分ごろまで討議をいただきまして、その後、全体会にてまとめの報告をお願いしたいと考えております。なお、討議の柱といたしましては、1つ目が、「多様な人間関係が構築できるような環境作りについて」、特に、標準学級数を割り込む学級の課題や、クラス分けができないことの課題等について討議をお願いします。2点目が、「すべての子どもが認められる関係づくりにおいて重要なことは何か」、3点目が、「対話的で主体的で深い学びのできる授業を行うために重要なことは何か。そのためにICT機器をどのように活用すれば効果的か。ICT機器を教育に導入することで、教員の多忙解消につなげることが可能ではないか、について」の三点で進めていただきますよう、お願いいたします。議論していただくお時間ですが、19時をめどにしていただきまして、残り10分で意見の集約をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。以上です。

新谷部会長

ありがとうございました。ではまず、1点目といたしまして、多様な人間関係が構築できるような環境について、ということで、皆様からご意見を頂戴したいと思いますが、ちょっと議題に入る前に、高槻出身ですので、今回の地震のことについて。自分自身も、7時56分に子どもを見送って、2分後に地震が発生して、慌てて通学路を追いかけたんですけれども、細い通学路でして、そこに小学生が20人ぐらいがダンゴムシのポーズをして、きちんと防災の動きをしまして、日ごろの教育の成果を感謝したんですけれども、隣に3メートル位の壁があって、その上にブロック塀があって、地域のセーフティボランティアの方が、「そこは危ないから、真ん中歩き」というふうに声をかけていただいて、その後も小学校の先生も来ていただいて、その引継ぎとかもそのセーフティボランティアの方がしてくださったので、これこそ地域での多様な人間関係のつながりだなということ、改めて感じて、感謝した次第です。校区全体でも防災活動を行ってまして、中学校、小学校地域でバケツリレーなどを通して、どこの地域に高齢者がいるのかとか、そういったことを把握するような活動もしていることも、安心につながったかなと思っています。

話は変わりますが、今回の資料の3ですが、校区別の世帯数および人口、学級数、児童生徒一覧というものをいただいております。実際ここで、児童生徒の人数の多い学校と少ない学校の現状というのを伺っていきたいと思うんですが、実際にこれを見ていきますと、門真小学校からずっと並んでいまして、学級数だけで見ますと門真小学校が15学級、大和田小学校が10学級、二島小学校が15学級、四宮小学校が18学級でここがかなり大きいんですね。古川橋小学校12学級、沖小学校が12学級、上野口小学校が12学級、速見小学校が15学級、脇田小学校が14学級と、まあ大体、10～18位の間にあるのかなと思うんですが、次の北巣本小学校が6学級、五月田小学校も9学級、東小学校は12学級ですけども、砂子小学校は7学級ということで、門真みらい小は21学級ということですので、裏は中学校となりますが、中学校は、大体10から14の間で落ち着いていると思うんですが、特に小学校の中では、みらい小学校の21学級と、北巣本の6学級ではかなり学校の様子が変わってくると思うんですが、上甲先生や中川先生の方で、どのようなイメージがあるのかとか、働いてる学校の先生はどのようなことをメリットデメリットと感じてらっしゃるのかということ、知っておられたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

上甲副部会長

うちは校区にみらい小学校があるので、一学年3クラスから4クラスあるんですかね、規模が大きくて700人以上子どもがいると思います。だから先生の数も非常に多くて、運動会とかにも招いていただいて見に行くんですが、割と活気があるというか、活発な雰囲気がありますね。規模の小さい小学校は校区にはないので、実際に見に行ったこと

が無いので、少しイメージが掴みにくいのですが、北巢本小のような6クラスしかないという学校は、ずっとクラス替えなしということになるので、人間関係が固定化されて、やりやすさもあるんでしょうけど、やりにくさもあるんじゃないかなと思ったりします。具体的には見たことがないんですけど。

新谷部会長

中川先生いかがですか。

中川委員

私は去年まで五中にいましたので、北巢本小は校区でした。逆にいうとこじんまりとした、いいところもあるかと思えますし、一学年で1クラスしかないということは、担任の先生としては、ある意味、会議ということを行う必要はなく、自分で子どもたちのことについて、こうやっていこうと進めていける部分もあれば、逆に相談するところや打ち合わせをして一緒にやっていくというところがないので、経験が浅かったりすると、一人で全ての責任を負うという形になってしまって、プレッシャーを感じている先生もいらっしゃいましたし、あと、砂子小の先生から聞いたことがあるんですけども、数が少ないと一学年で遠足といっても、バスも借りられないので、二学年で一緒に行かないかとか、駅から遠かったりすると、駅まで行くの大変やし、どのような形でも遠足なり、校外学習なり、お金の負担であったりなかなか難しい問題がありますというようなことを聞いたことがあります。

新谷部会長

ありがとうございます。実際人数が少ないと、単学級とか標準学級数を割るというようなことがあると思うんですが、片山委員、川村委員はいかがですか。実際には自分が通っていた頃の学校よりも、かなり規模が縮小していると思うんですけども、PTA活動などをする上で、特に感じていらっしゃる事とか、ありますでしょうか。

片山委員

そうですね、私の子どもが上野口小学校なんですけど、かろうじて、2クラスになっています、今のところ。ただもう、一年二年の人数を見ていただいたらわかるように、1クラスでもおかしくないような状態になりつつある状況でして、親としては、少人数で、学校の先生の目が行き届いているような状態で子どもを通わせられるっていうのは非常にありがたいことなんですけど、先ほどおっしゃられたように、クラスで何か問題が起ると、不登校になってしまったり、なじめない子が出てくると、大変だろうなというイメージはあります。

新谷部会長

川村委員いかがですか。

川村委員

難しいですね。私の子どもは五月田小学校ですけど、ちょうど上の子どもが小学校に行ってる時に、どんどん人数が減ってきたところで、過渡期というか、まだその時は2クラスでも、学年74、5人だから、クラスが37、8人だったのが、下の子が小学校に行ったときにはもう50人の2クラスだったので、それだけ違いがあるし、クラスが減ってくると、先生の数も減るので、6年間のうちの4年間が同じ先生ということもありました。私は教育的にそれはどうかなと。先生も個性があるので、子どもたちがいろんなものをすごく吸収する時期に、4年間同じ先生で、みんな平等に先生は扱っていると思うんだけど、でもやっぱり好き嫌いというか、感覚的に合う合わないがあると思うんです。そうなったときに、ちょっと苦手かもというような先生だったり、子どもだったりすると、それが4年間続くとなったら、その影響ってすごいと思いますし、若い先生も多いので、子ども同士のトラブルとかも起きますし、保護者の対応についてもいろいろ聞きますし、どっちもどっちだと思うんですけど、そこがこじれてしまったら、ということ考えると、たくさん先生がいてたくさん子どもたちがいてたくさん保護者がいる状況よりも、少ない状況の方がこじれたらより大変だと思いますし、逆にこじんまりしているからこそ、フォローもしやすいというところもあるかもしれないので、どちらがどう、とは言えないですね。PTA活動に関しては、多いからどうか少ないからどうということは、私はないと思っていて、それは保護者や先生がどのように考えて活動するかだと思うので、大きければ大きいだけスケールメリットで良いことができると思いますし、小さいなら小さいなりの方ができると思うので、それよりも子どもが少なくてクラスが1クラスしかない、それを6年間という方が、私は個人的には危惧しているところです。

新谷部会長

そうですね。自分のイメージだとクラス替えあるのが当たり前というイメージがあるから、子どもはもしかしたら違うかもしれないんですけども、自分が教員をやっていて、合う合わないというのは確かにあります。先生のほうも大変かなと。苦手だなというのはお互いに通じたりするので。

川村委員

特に、保護者との関係もありますので、子どもとうまくいっても、保護者とうまくいかなかったりしたときに、4年間とか3年間というのは。

新谷部会長

短大でも、1年2年とやってきて、1年で友達関係ができなかつたりとかした場合には、クラスをちょっと変えたいなと思うこともあつたりするんですね、実情として。そう考えるとそこでクラス替えがないと、教員として手がない、打つ手がなくなってしまう。そうすると逆に思い切ったことができなかつたりするんですね。もしここでこじれたとしても、最悪クラスを変えていく方法もある、ということが使えないと、人間関係にグッと手を入れることが難しかったりするかなとか。保護者との関係もちょうと臆病になってしまつて、なるべく問題を起こさないような形で進めるという教員心理も理解できるようになつたんですけど。いかがでしょうか、中川先生。

中川委員

私も自分が小学生の時は5クラスでしたし、中学生の時も7クラスでしたし、クラス替えがあつて当たり前でした。で、高校に行ったら特進が1クラスだけで、高校の先生からも、「クラス替えなく、3年間これで行きます。生徒さんにも伝えて下さい。」とはっきり言われるんですね。そう考えると、クラス替えがあるかないかというのは大きいんだろうと思います。

新谷部会長

メリットデメリットがあるにせよ、クラス替えできないということは選択ができないという状況ですから、選択肢がある中でクラス替えするしないということではなく、物理的にできないということは、先生にとっては難しいかなと感じます。

ありがとうございました。続いて二点目といたしまして、全ての子どもが認められる関係づくりにおいて重要なことは何か、ということなんですけれども、これも資料があるんですね。事前資料として資料1、OECDにおけるキー・コンピテンシーについてと、主体的、対話的で深い学びというスライドのものなんですけれども、OECDにおけるキー・コンピテンシーについて、詳しく書いていただいているんですけれども、これをパッと見てなかなかイメージしづらいと思いますので、4ページ以降のスライドの、大阪府の児童と門真市の児童の比較の数字を一度確認して、門真市の子どもがどんなことを思っているのかということを確認してから、話に入りたいなと思つているんですけれども、まず主体的な学びという点で、授業の中でめあてが示されていたと思う、小学校では、大阪府の児童は87.9ポイント、門真市は81.3ポイントで、若干低いと。8割が感じているということは事実なんですけど。次は中学校の方ですと、同じ質問で、今度は中学校では門真市の方が高いということですね。9割が示されていると。今日の授業で何を勉強すればいいのか分かっているという状況だと。振り返りの活動をよくしていたかということなんですけれども、大阪府が76ポイントに対して門真市が69ポイントということで、振り返りも小学校のほうは若干弱い様子が見られます。多分先生に余裕が

ないんだと思います。その日にやらないといけない授業があって、やっていたら時間がなくなっちゃったっていうのもあるんじゃないかなと個人的には思います。後、振り返るのが怖いというのも、気持ちとしてあるんじゃないかなと。今日はこんなことをやったけれども、振り返りして、分かってない子がたくさんいたらどうしようという。これは自分自身の反省ですけど。

次、中学校では逆に振り返りについては大阪府に比べるとかなり高いですね。大阪が60ポイントに対して、門真市は73ポイントということで、これはかなり意識されているんですかね、中学校の方では。そのような研究授業とかがあるんでしょうか。

上甲副部長

どの中学校でも、門真市の授業スタンダードのようなものを参考にして自分の学校の授業スタンダードみたいなものを作っていて、うちの学校でもありますけれども、こういうふうに統一してやろうというような気運はあると思います。中学校では。

新谷部長

そうですか。特に中学校で高いというのはいいと思うんです。内容が難しくなってくるので。次に、先生から示される課題や自分たちで立てた課題に対して、自ら考え自分から取り組んでいる、というのが大阪が73ポイントで、門真市は66ポイント。やはり小学校では少し低いと。中学校の方では、大阪と門真どちらも66ポイントぐらいだということなので、グループ活動するとき、課題とか目安というものがないと、なかなか難しいと思うんですけれども、門真市が66ポイントということは、もう少し数字が上がってもいいかなと思いますね。主体的な学びのところをまとめると、問題とするレベルではないと思うんですが、若干小学校の方で授業の目安とか振り返りというのは弱いという状況かと思います。次に、対話的な学びのところですけども、大阪の児童が82ポイント、門真市が76ポイントで、学級の友達と話し合う活動というのは、大阪に比べると低いと。で中学校のほうは話し合い活動は大阪に比べると高いという状況です。で、次に深い学びのところですけども、ここが難しく、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりする、広げたりすることができている、小学校は大阪64ポイントに対して、門真が51ポイントと。中学校のほうでは大阪とほぼ同じ位で、57ポイントに対して門真市は54ポイントということなんですが、なかなか小学校の方でも、対話的な学びとか、深い学びというのが、大阪に比べて難しくなっているという状況ですね。そうするとOECDの話は少し割愛するにしても、なかなか主体的、対話的で深い学びということについて、もう少しこれから改善すべき点もあるんじゃないかなという姿が見えてくる、特に深い学びというところが難しいかなと思っています。次のページに、それを改善しようとするいろんな取り組みを各学校でされているということなんですけれども、対話的で深い学びというところだと、はすはな中学校の取り

組みが、研究指定1年目ということで紹介されていますので、実際の授業という面で、どのようなことをされているかということ、上甲先生からお伝えいただきたいと思います。

今年から新たに1年目ということで研究をスタートしているんですが、キャリア教育というところをうちでは基盤にしてやっていきたいんですが、言語活動をしっかり充実させるような授業とか、後、やってみたいなという声が出ているのが、教科横断型でつながりのある授業を意識できたら、子どもたちの学ぶ意欲をもっと喚起されるんじゃないかなと、具体的な動きはこれからですが。

新谷部会長

中川先生は、はすはな中でしたね。

中川委員

はい。私は理科なので、国語の教科書に載ってる科学的な論説文などがあったりすると、理科の知識を持って、国語の文章の読み取りを行ったりということで、授業の順番を変えてみたり、同じ時期に同じことを習っていると子どもの理解力が高まったりとか、そういうことをもっと進めていきたいと思っています。今までは、教科単独でどうやって知識を深めていくか考えていたことを、横断的に考えていくことで、子どもに返していけるんじゃないかなと考えています。

新谷部会長

研究指定校は3年目とか2年目の学校もあるんですけども、実際に見に行かれたりとか、ここの学校の先生のことを知っているとか、そういうことはありますか。大和田小、北巢本小、東小。

上甲副部会長

この研究発表は、大体秋に多いんですよ。11月位とか。その時にはできるだけこぞって見に行こうと。特に校区は意識して見に行こうということになっているんですけども、今年度1学期にどこかの先進校に行ったことがないんですが、去年まではちょこちょこ行っていました他府県に行ったりとか。

新谷部会長

実際にこの大和田小とか北巢本小でやってることっていうのは、見に行かれたという事は。

上甲副部長

2年目の発表とかは行かせてもらいました。去年のね。

新谷部長

どんなことを発表されたんですか。

上甲副部長

工夫している授業とか、そういうのを見せてもらいました。

新谷部長

事務局の方で資料とか、こんな取り組みがあったとか、ありますでしょうか。

事務局（峯松学校教育課参事）

そうですね。この授業の写真、本当はもう少したくさんいろんな学校のものを集めたかったんですが、二校しか集められなかったんですけれども、8ページに書いている左上ですね、これは昨年度に研究発表した学校なんですけれども、この学校は国語科で研究指定を受けて、テーマが話し合い活動を通して、分かる楽しさが実感できる授業づくりということで、授業のあらゆるところで、対話の場面、例えばこの写真でしたら、2年生でペアで対話をしている場面ですけど、他にも5年生ではグループでの対話をしていたり、授業のあらゆる場面で対話の場面というものを入れることによって、そこから深い学びにつなげていくという実践をしている学校です。右側は大和田小学校で、国語の研究授業をしているんですけども、国語だけに限らず、いろいろな教科ということで、これは社会ですね。私たちの生活と食料生産というところで、導入の産地調べのところで子どもたちが主体的に産地調べの地図作りを行うと、そういういろいろな授業で主体的な取り組みを入れることによって、そこからさらに産地調べが主体的に取り組むことにつながり、また次の学びにつながると、そういう取り組みを実践している学校ということで紹介させていただきました。

新谷部長

ありがとうございます。なんか、川村委員、難しい顔をしていますけども。

川村委員

いや難しい課題だなあと思って。主体的、対話的って、なんていうか、頭の固い人が好きそうな言葉だと思って。

新谷部会長

川村委員は、例えばどんな力を伸ばしてほしいと思いますか。

川村委員

難しいんです。主体的、対話的やからって、そしたら対話をしたらいいんかとか、そもそもとして言葉に踊らされる授業か？みたいな。対話はしているけれども、本当にこれが学力とか、子どもの学びに結びつくのかとか、先生の中ではグループになってるとかマンツーマンで話をしているからできている、ということで終わっているんじゃないかとか、深く考えていくと、どうなんやろ、と一人で考えてしまいます。

新谷部会長

必ずしも対話をする力というのは、対話だけで伸びるものじゃないと。僕も高校で1年間留学に行ってきた、帰ってきて大学に行き、帰国子女たちが僕よりもうまい英語でしゃべっていてびっくりしましたけども、僕の1年間はなんやったんやろうと思ったんですけども、話している内容は薄っぺらかったので、中身も必要だと思いました。決して自分がいい学生だったというわけではありませんけども。片山委員、いかがでしょうか。保護者目線、地域目線から、こういう取り組みに関して。

片山委員

時代背景からすると、こういう対話的な学びとか深い学びというのが取り入れられるというのはすごくいいことだと思うんですけども、小学校の授業時間数のうちに占める、こういった取り組みの時間数が、年次的にどうなっているのかというのは、すごく気になるところです。年々増えてきているのか、おそらくこういう写真にあるようなグループディスカッションするような授業ばかりじゃないと思うんですけども、実際にグループディスカッションもするけれども、一方で通常の授業みたいなものもあると思うんですけども、その比率が年々どうなっているのか、私、中学校の生徒を見ていると思うんですけども、小学校の時は比較的こういうグループディスカッションみたいなものが多くて、中学校になると突然授業ばかりで、こういう学習意欲を盛り上げるような授業がほとんどないような感じがするんです。そこで小学校と中学校の授業の中身、内容にギャップを感じて、挫折をしている子がいるんじゃないかなと。一方で先ほどアンケート結果で、小学校では振り返りとかをやっていないけれども中学校ではやっているというような話がありましたけれども、小学校は言い方は失礼かもしれないんですけども、どちらかという授業はゆるい感じで、中学校に上がると小学校の時の学習がおろそかになっていた子らが、中学校に上がって挫折する。結構、テストの結果を見ても、点数の悪い子たちは小学校レベルの勉強ができていない。そこから学習し直さないとダメというような状況が見受けられるんです。それを考えるとやはりもう少し

小学校から、きっちり、振り返りなり、学習への取り組み姿勢を高めてもらえたら、中学校の先生や、もしくは中学校の生徒が苦勞することがないかなと思ったりします。

新谷部会長

なるほど。ありがとうございます。という意見もありますけれども、中川先生いかがですか。

中川委員

対話をするためには、やはり基礎的な部分が絶対必要で、算数にしても計算方法に対話するためにはそれが分かっていないといけないし、九九ができるかできないか、通分ができるできないか、というようなところが重要で、そういう部分に関してはやはり押さえていく必要があると思いますし、アウトプットの仕方についても、1人で問題を解き続けていくというよりかは、いろんな意見を聞いて、そんなこともできるんだというほうがすごく深まっていくと思います。でもその比率というかバランスがよくないと、ただ話しているだけで満足ということでもいけないし、今、小学校でも中学校でもいろんな上手い先生から教えてもらったり、本を読んだりしながら勉強していったところなんですけども、まだまだ模索中というところもありますし、中学校としては、高校入試に向けてどうしても覚えられないといけない部分もありますし、理科でも話し合いやすい単元なら積極的に話し合いますけれども、そうやってうまくバランスをとりながらどうすれば子どもの力を最大限引き出せるかなというところだと思うんです。

新谷部会長

今回文科省で言っている主体的、対話的で深い学びのうち、深い学びが一番難しく、先生の方にも幅広い知識と、高い単元構成力というか、授業をデザインする力が必要でしょうし、子どもたちも一定レベルの意欲と学力がないと、入っていけないと。そう考えると毎回深い学びというのは難しいなと思うんです。なので授業研究のあり方も、深い学びを、一年間に一回とかなら、一生続くかもしれないし、学校全体で一つのテーマで、10年かけてやるというようなスパンで考えないと、パッと取り組んでパッとできるようなものではないと思いますので、10年かけて一つのことを研究したのなら、その先生はそのことについては授業ができると思うので、それぐらい時間をかけたものの方が子どもには引っかかると思うので、先ほど話があったように、文科省が対話と言っているから対話しようかではなく、先生が余裕を持って、これをやってみたいと思うものを見つけて、10年かけて、それをやると。それを支援する学校であったり先生であったり、それを見守る少し気の長い保護者であるとか、そのように考えた方が良いのではないかなと思いました。うちの小学校3年生の子どもが将棋にはまっているという話を前にしたんですけども、「お父さん、将棋ってどこの国からできてきたん？」と

というようなことをいったんです。そこからすぐに答えをいうのもあるんですけども、「調べてみたら？」というふうに話をしてみて、そうするとインドから始まってヨーロッパに行ったり中国に行ったり、そういうことがわかって、いろいろつながっていくと思うので、授業の中でもそのような子どものつぶやきや関心を拾って、そこから広げていけるような余裕があったらいいなと思いますね。ということで、授業研究をするには余裕が必要だと。優しい目で見てくださいということですね。あとやっぱり、先生たちだけでやるということは難しいかなと思うんです。例えば保護者の中にも、いろんな方がいらっしゃると思いますので、そういう方とつながって、ゲストティーチャーとして迎え入れたりとか、地域の方を聞き入れて、今やっているテーマだからこそ、この人に来てほしいということで、つながるといふ取り組みがいいのかなと思います。今はどちらかという逆で、地域や保護者と協働しないといけないからこれを入れていこうみたいな感じが多いので、本当は逆だと思うんです。先生や子どもの方でこういうことを知りたいとか、こういうことを伝えたいというようなものがあって、保護者や地域でこういう人がいてるらしいから、その人を呼ぶという流れが一番いいと思うんです。そういうふうな授業研究であったり地域とのつながりができればいいなと思います。

次のテーマに行きたいと思いますけれども、3点目、主体的、対話的で深い学びのできる授業を行うために重要なことは何かということで、ICT機器をどのように活用すれば効果的か、それを導入することで教員の多忙化解消につなげることが可能ではないかということで、これも資料をいただいていますね。資料2ということなんですけども、正直、これはちょっと字が細かすぎてパッと見るだけでは理解できなかったもので、事務局の方で、ここは見て欲しいというところはありますでしょうか。例えば先生が一人一台パソコン持っているのかとか、そういうところですね。

事務局（石原学校教育課副参事）

まず1ページの右下をご覧くださいなんですけれども、国のICTの環境整備の基準が定められておりまして、2020年までに一人一台という目標がある中で、整理計画といたしましては一日1コマ分程度一人一台で学習できる環境を実現するという目標が定められております。そういう中で、本市の学校の状況で言いますと、2ページ目をご覧ください。現状のところ、子どもたち一人一台というところまでは整備できていない状況です。ただ小学校につきましては50インチのデジタルテレビが各教室に一台、そして実物投影機、手元を移す機械ですが、それが各教室に一台ずつ入っているというところが小学校になっております。無線LANの環境につきましては、アクセスポイントという機械を使って、インターネットが接続できるようになっております。中学校を見ていただきますと、中学校にはデジタルテレビが各教室に全てには入っていない状況になっております。そのためにプロジェクターとスクリーンが各校に10台程度入っております。また中学校にはデジタル教科書を入れさせていただいており、それを活用した授

業づくりが進められております。小中共通しまして、タブレットPCが20台程度教員用という形で入っております。さらに小学校には10台の児童用のタブレットが入っています。次期指導要領ではプログラミング教育や外国語の教科や、デジタル教科書をどんどん入れていくという形での活用が叫ばれておりまして、その辺りの対応については急務であると市としても感じております。

新谷部会長

ありがとうございます。実際、学校現場で使われている上甲先生と中川先生に聞いていきたいと思うんですけど、どんな使われ方をしているんでしょうか、ICTについては。

上甲副部会長

中川先生はよく使っているので。

中川委員

本当に、理科のデジタル教科書を入れていただいてありがとうございます。

新谷部会長

結構良いんですか、それは。

中川委員

私は今もうこれがないと困ります。深い学びというところまで繋げられているかどうかというと、まだまだ勉強不足かもしれないですが、去年まではプロジェクターで、今は大型テレビにつないで提示しているんですけども、教科書と同じものが出るので、このグラフから考えてみようというのがあったら、そこを拡大すればポンとグラフが出て、注目してほしいところがあっても、わざわざ黒板にグラフを映したりとか拡大コピーをして、貼って、というのではなく、簡単に注目させることができますし、パソコン上で印を打つこともできますし、紙でやると、一度書いたら終わりなので、何クラスも用意しないといけないところを、リセットを押したら全部消えますし、この図を見てほしいこの写真を見てほしい、またそのデジタル教科書の中にも、理科的な映像であったり教材がありますので、それを押せば見てもらえて、もちろん実際の実験も理科室でやりますが、できない実験についてもポンと見せられますので、子どもらも興味を持って見てくれたりもしますし、本当にありがたいです。

新谷部会長

先生ご自身は何年前ぐらいから使われてるんですか。

中川委員

一つ前の教科書の時に無理を言って学校予算で入れてもらったので、4年前ぐらいですか。他の学校の先生もこれはいいなあということで、市にお願いをして、今は全ての学校で入れていただいて、使っておられる先生方が増えていると思います。

新谷部会長

なんか研修会みたいなものがあるんですか。

中川委員

教科書が変わったときに、デジタル教科書のレベルも上がってできることが増えたので、独自の教員研修等で、こんなことができますよ、というような情報共有や活用の交流を行っています。

新谷部会長

生徒の反応とか実際の学力についてはどんな感じなんでしょうか。

中川委員

この学校に来て一年目なので、まだよくわかりませんが、僕が来る前も前の先生がずっと使っておられたので。

新谷部会長

子どもらの食いつきも結構いいと。

中川委員

やっぱり勉強が苦手な子は、教科書のここを見なさいと言われても、「どこ？」みたいになってしまうので、画面を拡大して印をすれば、「あー、ここね」という形ですぐにわかるので。あと、書画カメラについても黒板に書くとプリントとは違う形になってしまうので、作図などにしても、子どもたちに配っているプリントや教科書と同じものを映して、同じように書き込むと、とても分かりやすかったりもするので、視覚に訴えるというのは、学力に直結しているかどうかは分かりませんが、有効だと思います。今の僕にとってはないと困るツールです。

新谷部会長

私も大学の授業とかで、「考えるカラス」というのを、実際にやってみて、番組を流して、という形で授業をするんですけども、やっぱりあると便利ですね。でもWi-Fi

とかがうまくつながらないと難しいと思うんですが。無線環境はいかがでしょうか。途中で止まったりしませんか。

中川委員

今は、各教室に有線 LAN のコンセントがあるので、そこから引いていますので止まることはありません。

新谷部会長

なるほど、そうですか。というような状況だそうですね、川村委員、片山委員は、どうでしょうか。子どもたちもスマホやゲームが身近にあると思うんですが。

川村委員

うちはもうゲーム三昧です。私さっきからずっと学ぶ意欲とか主体的とかってという言葉について、何で今の時代にそんな言葉がたくさん出てくるんだろうなと思っていたんですが、自分の個人的な感覚ですけれども、結局は、想像できる子どもたちであったり、想像力をかき立てるような授業できる先生が減ってきているのかなと思うんです。何でこれってこうなるんだろうっていうことは、やっぱり想像力が大切で、何もなくて淡々と授業が進んでいったら想像するような場面はないと思うんです。そこを想像させるような、授業の中での一言があるかないかというようなところも、すごく重要なのかなと思ったら、結局求めるところがそこなのかなと。ICTが発達してきたらいろんな部分をICTが担ってくれるので、そのさらに上を行くとか、ICT機器を使いこなそうと思ったら、考える力が必要で、そういう考える力があれば、伝えようと思う気持ちも高まって、対話をしようという形につながるのかなと思ったのと、小学校の時にNHKで理科の15分番組を時々先生が見せてくれたんです。それがとても嬉しくて、国語の時は人形劇みたいなのを見せてもらって、何かサボってるみたいな感じなんですけども、いつもの授業と違う感覚で楽しかったり、先ほど中川先生が言っていたみたいに、目で訴える刺激って、聞いて頭で考えて想像するより、目の前で見ることによって、こうなるんやと気づかされたり、その映像を見ながら次の場면을想像したりということがあると思うので、視覚的に訴える、こういうものを取り入れていく、というものは有効なんだろうなと個人的には思います。今の若い人たちはそうでなくてもネット環境の中で育ってきてるから、やり始めるともしかしたらすごい勢いで吸収したり、普通に授業するより、こういうものをきちっと入れて活用する方が、子どもたちにとってはプラスになるかもしれないと思いました。すごく先生の能力をカバーしてくれるものにもなり得るんじゃないかなと思います。

新谷部会長

なるほど。片山委員、いかがですか。

片山委員

私のところも、同じ学年でプロジェクターやパソコンを使って授業を進めてくれる先生と、同じ教科でありながら、それをあまり使わない先生とでやはり差があり、どうしてもプロジェクターや視覚に訴える授業を進められる先生の方が人気が高いというのは明らかでした。羨ましがっている子どもを見てきましたので、あそこのクラスは、あの先生が常にプロジェクターを使って授業を進めているので、うらやましい、いいなあという話を聞かされていまして、非常に有効だと思います。川村さんがおっしゃったように、授業を進めるのに均一化できる可能性があるのではないかと。先生によってはこの分野が好きとか、この分野はちょっと苦手だというような先生もおられると思うんですね。ICT 機器を使うことで、どうしても好きな分野の授業にばかり力が入って、先生自身が苦手な分野の授業がおろそかになったりするようなことが減ってくるんじゃないかなと。授業の内容の均一化が図れるんじゃないか、というところがいいかなと思います。ただ一方で、使い慣れている先生になってきますと、これも息子から聞いた話なんですけども、結構マニアックな画像とか、これは授業と関係あるの？というような画像がかなり多くなるようで、どうなのかなという話を聞いたことがあります。

新谷部会長

今、川村委員のお話伺って、私はアメリカで小学校で先生の学び合いとかを見ているんですけれども、得意な分野があるんでしょうね、3人ぐらいの先生がいるんですけれども、水の循環のスライドを作った先生と貿易風についてのスライドを作った先生、多分それぞれがその内容が好きなんだろうね。だから、「これを作ったから使ってよ」みたいな感じで、お互いにスライドを交換して、授業準備、楽だろうなと思ったりしていましたね。個人的には、何も使わずに話一本で聞かせる先生になりたいと思っているんですけど、聞く方のイメージーションと語り手の下手くそさで成り立たずに諦めて、ビデオ見ようか、みたいな感じになっていますけれども。先ほど川村委員がおっしゃったみたいに、たまにあるから嬉しかったりするのがありますよね。だから毎回毎回視覚ばかりに頼るというのも、お互いのためにならないのかなという感じはあるので、バランスが必要かなというふうに思います。多忙化という業務の軽減、校務の軽減についてはどうなんでしょうか、ICT は。機能していますか。

中川委員

中学校はだいぶ入っているというか。

新谷部会長

どんな点で入っているんですか。

中川委員

大分、小学校でも進んでいると思うんですが、例えば通知票のフォーマットを中学校全体で相談しながら作り、すべての中学校で若干のアレンジはありますけども使っています。だから転勤しても大体書き方が同じですし、それによって今まで手書きだったものが印刷で済むようになっていたりして、それだけで学期末の仕事が軽減されますし、成績をつけるにしても点数を入れておけば関数によって自動で成績がつけられますし、他にもデータという点において毎年行うのであれば、去年のデータをうまく活用して反省点を一部修正するだけで、次の年も使っていけるということで、また新しく何かを始める時も、それを他の学校やっている場合はそこからデータをメールで送ってもらって、参考にさせてもらうとか、だいぶ進んでいます。ただ、そういう作られたデータは制度が変わるとあなたに作り直さないといけないので、例えば入試制度が変わったりするとそれに合わせたまた新たなデータを作らないといけなくて、その担当の人の負担が増えることはありますけれども。

新谷部会長

かなりそういう点では業務軽減には役に立っているということですね。

中川委員

そうですね。入れば入るだけさらにもっともっとできる部分があるんじゃないかなと思うんですが。

新谷部会長

残り時間も少なくなってきた、あと2分なんですけども、どなたでも結構です、ICT以外でも。先程の細郷学園のように、いろんな良い学校の施設を見たばかりですので、こういう環境もあつたらいいんじゃないかとか、言い残した要望があれば。

片山委員

一つ気になったんですけども、細郷学園について、あそこは市内からならどこからでも通えるんでしょうか。

新谷部会長

というような話でしたね。

片山委員

人数に限りもあると思うんですけども、希望したら全員が行ける学校なんですか。

新谷部会長

なるほど、では、それを後で全体会で伺いましょうか。

中川委員

なかなかでも誰でもいける地理的な場所ではないと思います。昔池田で教師をしていたことがあるんですけども。

川村委員

あえてそういうところに立てたんですかね。

中川委員

でも、自然豊かな所ではあるので。

新谷部会長

もともと児童生徒数が少ないところなんですかね。

中川委員

どんどん少なくなっていってるんだと思います。友達でその出身の人もいますけど。

新谷部会長

なるほど。あと、ICTの先進校の話聞くのを忘れていたんですけども、また機会があればよろしくお願いします。それでは、ありがとうございました。最後まで活発なご意見をいただきまして、ありがとうございます。部会での議題を終了いたしますので、事務局よりこの後の流れについて説明お願いいたします。

事務局（峯松学校教育課参事）

活発な議論ありがとうございました。皆さんに議論していただきました意見につきましては、その概要を全体会で部会長より報告いただきまして、審議会全体で共有させていただきたいと思います。それでは、大会議室に移動してください。ありがとうございました。